

聖霊降臨後第17主日のミサ固有唱

<書簡>において、囚人パウロは、まことのキリスト教生活を行えとわれらに教えている。この生活は、神秘体の一致性を実現することである。すなわち、平和と愛徳にむすばれた一つの身体と一つの靈魂となるべきである。

神の掟は、同じことを目的とするものである。この一つの目的とは、愛である。<聖福音>

聖体を制定してのち、死地におもむこうとするキリストは、普遍的愛の新しい掟を宣誓し、御父にむかって、われらを一つに結び給えと祈り給うた。

詩編 118.137,124

入祭文

JUSTUS es, Dómine, et rectum iudicium tuum: fac cum servo tuo secundum misericórdiam tuam.

主よ、御身は正しく在し、御身の審きは正義である。御憐れみによって、下僕を扱いたまえ。

Ps. 118. 1. Beáti immaculáti in via: qui ámbulant in lege Dómini.

生涯にわたって清く生活し、主の掟を守る者は幸せである。

V. Gloria Patri.

願わくは、聖父と……

DA, quæsumus, Dómine, pópulo tuo diabólica vitáre contágia: et te solum Deum pura mente sectári. Per Dóminum.

集祷文

主よ、願わくは、御身に悪の交わりを避ける恩寵を与え、清い心をもって、唯一の神なる主のみに従わせたまえ。神として……

エフェソ 4.1-6

書簡

FRATRES: Obsecro vos ego vincetus in Dómino, ut digne ambulétis vocatióne, qua vocáti estis, cum omni humilitate et mansuetúidine, cum paciéntia, supportántes ínvicem in caritáte, sollíciti serváre unitátem spíritus in vínculo pacis. Unum corpus et unus spíritus, sicut vocáti estis in una spe vocatiónis vestræ. Unus Dóminus, una fides, unum baptísma. Unus Deus et Pater ómnium, qui est super omnes, et per ómnia, et in ómnibus nobis. Qui est benedíctus in sæcula saeculorum. Amen.

兄弟たち、主に結ばれて囚人となっているわたしは、招かれたあなた方が、その招きにふさわしく生活するように勧めます。あくまでへりくだりと優しさをもち、広い心で、愛によって互いに耐え忍び、平和という絆で結ばれて、霊のもたらず一致を大切に保つよう熱心に努めてください。体は一つ、霊は一つです。あなた方が招かれたのもただ一つの希望に支えられてのことでした。主はひとり、信仰は一つ、洗礼は一つです。すべてのものの上に位し、すべてものを通して働かれ、また、すべてのものうちにおられる、すべてのものの父である神は唯一です。

詩編 32.12,6

昇階唱

BEÁTA gens, cuius est Dóminus Deus

神として主を崇める民は幸せである。主が、世継と

eórum: pópulus, quem elégit Dóminus
in hereditátem sibi.

V. Verbo Dómini cæli firmáti sunt: et
spíritu oris ejus omnis virtus eórum.

詩編 101.2

ALLELÚIA, allelúia. V. Dómine, exáudi
oratiónem meam, et clamor meus ad te
pervéniat. Allelúia.

マタイ 22.34-46

IN illo témpore: Accessérunt ad Jesum
pharisæi: et interrogávit eum unus ex
eis legis doctor, tentans eum: Magister,
quod est mandátum magnum in lege?
Ait illi Jesus: Díliges Dóminum Deum
tuum, ex toto corde tuo, et in tota ánima
tua, et in tota mente tua. Hoc est
máximum et primum mandátum.
Secúndum autem símile est huic:
Díliges próximum tuum, sicut teípsum.
In his duóbus mandátis unívrsa lex
pendet et prophétæ. Congregátis autem
pharisæis, interrogávit eos Jesus,
dicens: Quid vobis vidétur de Christo?
cujus fílius est? Dicunt ei: David. Ait illis:
Quómodo ergo David in spíritu vocat
eum Dóminum, dicens: Dixit Dóminus
Domino meo: sede a dextris meis,
donec ponam inimícos tuos scabéllum
pedum tuórum? Si ergo David vocat
eum Dóminum, quómodo fílius ejus est?
Et nemo póterat ei respondére verbum:
neque ausus fuit quisquam ex illa die
eum ámplius interrogáre.

ダニエル 9,4,17,18,19

ORÁVI Deum meum ego Dániel,
dicens: Exáudi, Dómine, preces servi
tui: illúmina fáciem tuam super

して選び給うた民は幸いである。

主は、主の御言葉によって作られ、天の力はすべて
その御口の息吹の業である。

アレルヤ唱

アレルヤ、アレルヤ。

主よ、私の祈りを聞きたまえ、私の叫びが御身に至
らんことを。アレルヤ。

聖福音

その時、ファリサイ派の人々は集まった。そのうち
の一人で律法の専門家が、イエスを試みようとして
尋ねた、「先生、律法の中でどの掟がいちばん重要
ですか」。イエスは答えて仰せになった、『心を尽
くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神
である主を愛しなさい』。これがいちばん重要な、
第一の掟である。第二もこれに似ている、『隣人を
あなた自身のように愛しなさい』。すべての律法と
預言者は、この二つの掟に基づいている」。さて、
ファリサイ派の人々が集まっているとき、イエスは
お尋ねになった、「あなた方はメシアについてどう
思うか。メシアは誰の子か。」彼らは、「ダビデの子
です」と答えた。そこで、イエスは仰せになった、
「それでは、どうしてダビデは、霊によってメシア
を主と呼んだのか。ダビデは言っている、『主は私
の主に仰せになった。私の右に座せ、わたしがあな
たの敵をあなたの足元に置くまで』。このようにダ
ビデはメシアを主と呼んでいるのに、どうしてメシ
アがダビデの子なのか」。誰一人、一言も答えるこ
とができなかった。その日から、誰もあえてイエス
に尋ねようとしなかった。

奉献文

私、ダニエルは、神に祈った、「主よ、下僕の祈り
を聞きたまえ、御光が聖所の上に輝かんことを。ま
た、神よ、皆を希う御民の御慈しみのお目を投げた

sanctuárium tuum: et propítius inténde
pópulum istum, super quem invocátum
est nomen tuum, Deus.

MAJESTÁTEM tuam, Dómine,
supplíciter deprecámur: ut hæc sancta,
quæ gérimus, et a prætéritis nos delíctis
éxuant et futúris. Per Dominum

VERE dignum et justum est, æquum et
salutáre, nos tibi semper et ubique
grátias ágere, Dómine sancte, Pater
omnípotens, ætérne Deus: Qui cum
unigénito Fílio tuo, et Spíritu Sancto,
unus es Deus, unus es Dóminus: non in
unius singularitáte persónæ, sed in
unius Trinitáte substántiæ. Quod enim
de tua glória, revelánte te, crédimus,
hoc de Fílio tuo, hoc de Spiritu Sancto,
sine differentia discretiónis sentímus. Ut
in confessióne veræ, sempiternæque
Deitátis, et in persónis proprietas et in
esséntia únitas, et in majestáte adorétur
æquálitas. Quam laudant Angelí, atque
Archángeli, Chérubim quoque ac
Séraphim: qui non cessant clamáre
quotidíe, una voce dicéntes:

詩編 75,12,13

VOVÉTE, et réddite Dómino Deo vestro
omnes, qui in circúitu ejus affértis
múnera: terríbili et ei qui aufert spíritum
príncipum: terríbili apud omnes reges
terræ.

SANCTIFICATIÓNIBUS tuis, omní-
potens Deus, et vítia nostra curéntur, et
remédia nobis ætérna provéniant. Per

まえ。

密唱

主よ、われらは、へりくだってみいずに祈り奉る。
この奥義を行うことによって、われらの過去の罪を
浄め、将来の罪より守りたまえ。神として……。

叙唱（三位一体）

聖なる主、全能の父、永遠の神よ、われらが、いつ
も、どこにても、主に感謝をささげるのは、実にふ
さわしく正しいことであり、我らの義務と救いであ
る。御身は、御独り子と聖霊とともに、唯一の神、
唯一の主にてまします。すなわち、御身は、唯一の
位格にてましますのではなく、三つの位格における
一体にてまします。われらは、御身の啓示にもとづ
き、御身の御栄光について信じ奉る真理を、御独り
子と聖霊とについてもともに等しく、差別なく、信
じ奉る。こうして、我らは、真の永遠の神をたたえ、
その神性において、位格の区別と、本性の唯一性と、
神の御稜威の平等性を賛美し奉る。天使、大天使、
智天使も熾天使も、これをほめたたえ、極まりなく
声を合わせて歌う。

聖体拝領唱

汝らの神なる主に祈れ。聖所の前に供物をする汝ら
は、忠実であれ。君主らの生命を奪い給うおそるべ
き神、世のすべての王にとっておそるべき神、その
神に祈れ。

聖体拝領後の文

全能の神よ、願わくは、聖なる奥義を拝領する我ら
の、病を癒し、永遠の生命の良薬を与えたまえ。神
として……。

Dominum nostrum.

※日本語訳は福音書及び書簡を除き、バルバロ『毎日のミサ典書』より引用。福音書及び書簡の日本語訳はフランシスコ会聖書研究所訳注『聖書』(2011年)より引用。

またのご参列を楽しみにお待ちしております。

ウナ・ヴォーチェ・ジャパン一同 (Mail:info@uvj.jp URL: <http://uvj.jp>)